

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会をはじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者:中島康登

作成日:平成30年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計):7

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

教育理念・目標についての評価は、「適切」、「ほぼ適切」という回答が多い。

③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているかという問いについて、「適切」と答える比率が前回比で高くなった。「現時点のニーズにはほぼ適切に対応している」と多くの職員が認識しているが、多様化が予想される行政ニーズに柔軟に対応できるスキルを持った学生をどのように育て輩出していくのか、構想の具体化が課題である。

④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などの学生・保護者等への周知については、「適切」と答える比率が前回比、高くなった。学生に対する告知は十分に行っており、保護者に対しても連携が取れている。引き続き取り組んでいく。

②今後の改善方策

社会のニーズ等を踏まえた将来構想については、学生を取り巻く環境の変化を敏感に察知し、的確に把握していくことが必要となる。

昨今、公務員の不祥事に関するニュースが多く報道され、行政機関に対する信頼が揺らいでいる。この観点から、採用したい人材に求められる資質は「倫理観」、「公平観」、「貢献力」等であると考えられる。短期的にこれらを養成する具体的な方策を講じるのは容易ではないが、業界や学校外との連携を維持し、的確な情報把握に留意しながら、教育内容に盛り込んでいく。

まずは「人を育てるためのボランティア」や「街おこしイベント」を通じた経験を増やすこととし、カリキュラムに盛り込みながら、「業界人魂」をそだてる職業教育を重視していく。

③特記事項

当校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、行政機関において必要とされる専門能力を身につけた人材の育成を目的とし、平成24年4月に開校した。以来、資格試験や公務員試験の合格に必要な専門教育を通して、社会人としての自覚をもち、精神的にも経済的にも自立した人材の養成を目指している。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	5	2	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	6	1	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	7	0	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	6	1	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	6	1	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	2	0	0

①課題

学校運営についての自己点検・自己評価結果では、「適切」、「ほぼ適切」という評価結果である。

②今後の改善方策

①②③については、引き続き、毎年度策定する学校運営計画に基づき、継続して定着を図り、その有効性を図っていく。

⑥業界や地域社会に対するコンプライアンス体制の整備について引き続き向上を図るとともに個人情報管理に注意を払う。

③特記事項

⑧情報システム化等による業務の効率化については、27年度から新しい学生管理システムを導入、学生事務関連の書類作成及び発行等について効率化を図った。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5	2	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5	2	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	5	2	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	2	1	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	5	1	1	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	6	1	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	7	0	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	5	2	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	6	1	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	5	1	1	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	6	1	0	0

①課題

昨年度と比べて改善が図られている。教育活動において「やや不適切」の評価意見がある項目は以下の通りである。

- ⑥関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)の体系的な位置づけ
- ⑦授業評価の実施・評価体制
- ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の資質向上の取り組み

⑥については、公務員として活躍しているOBOGの講演会、官公庁説明会、警察学校見学、自衛隊基地見学などを取り入れている。官公庁のインターンシップを積極的に活用できる機会の確保が課題である。恒常的に実施する必要があるが、インターンシップの受入れは少人数が前提であるため、一度に参加できる人数に限界があり、学生間の公平感を損なうことにもなる。安定継続して実施できる新たな提携先の開拓が課題である。なお、提携先の候補は公務員やその外郭団体であり、特定の連携は困難であるため、学生が個人的な立場として参加することになる。

⑦については、新入教職員及び入社数年次の教職員に対して実施している。

⑬については、公務員として働くうえで必要な教養や専門科目の研究は教職員個人としての自己研鑽だけでなく、組織として指導力を高める研修を実施している。先端的な知識や技術の習得という点でバックアップができているか、その質が課題である。

②今後の改善方策

卒業した学生が行政機関の担い手として、予測される社会の変化(グローバル化・IoT化・AI化)に、柔軟に対応でき、地域に貢献できる人材育成に繋がる教育活動になっているかを常に自問自答し、それにむけた準備を慎重かつ計画的に進めていく必要がある。

この点に関して、学園は専門学校としてはいち早くIoT化に着手、iPadを教材として全員に配布し、タブレット端末による教育スタイルを導入した。さらに、海外行動力検定・自己管理力検定・IT活用力検定・協調行動力検定の創設など、時代に対応するための準備を重ねてきた。また、1年に2回実施する教育課程編成委員会では業界の意見を収集し、それを反映した多面的なカリキュラム編成を重ねてきた。

今後の社会変化の振れ幅と見通しが不確定な状況でもあるため、時代を乗り切るための教育内容は、慎重に見極める必要がある。まずは、教職員の教育水準のレベルアップを図り、明確な強化項目を定め、それに基づき機動的に教育活動を行っていく。研修及び教職員の資質向上のための取り組みについては定期的の実施しているが、学園全体として、教職員の能力開発のための組織をつくり、5か年計画で教職員の能力アップを図る。

インターンシップについては、カリキュラム上のインターンシップの他、長期休暇などを利用しての取り組みを学生に奨励している。専門学校生の受け入れ先の開拓を継続し、柔軟に実施できるように調整していく。

教職員に対する授業評価については、校長・役職者による授業評価の回数を増やす。

③特記事項

学園では、教職員の知識向上のための各種研修制度がある。また、学園教職員の人間力を高めるため、学園長主催の研修会が年5回開催され、多くの教職員が参加している。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①就職率の向上が図られているか	7	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	5	2	0	0
③退学率の低減が図られているか	6	1	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2	3	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	5	1	1	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、昨年度と比べて改善が図られているが、以下の項目で「やや不適切」「不適切」の評価意見がある。

④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているかについては、卒業生の多くが公務員として勤務する性質上、学校側がその社会的活躍や評価をすることが難しいのが現状である。

⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているかについては、上記④と連動した内容である。学校の教育活動の向上には必要なものである。情報の収集を可能な限り行い、カリキュラムに反映させることが課題である。

②今後の改善方策

卒業生の情報把握については、官公庁説明会等に担当者が来られた際に、卒業生の活躍情報の入手を試みることにする。

昨年の学校関係者委員会を受け、就職後のミスマッチを避ける取り組みとして「公務員として働く入省2年目の卒業生」に来校いただき、OB・OGとして、在校生学生へ現在の職業意識を伝えてもらう機会を設けた。今年度もこのような機会を増やしていく。

公務員試験の合格率については高水準で推移しており、開校以来、行政機関で働く多くの人材を輩出している。引き続き尽力する。

③特記事項

昨年の学校関係者評価委員会において、退学率の低さが評価され、「今後も学生とのコミュニケーションや保護者との連携を図り、学生一人ひとりへの細やかな対応の継続」を要望された。平成29年度は退学者は0名であった。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5	1	1	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	6	1	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	5	2	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	6	1	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	4	3	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	2	3	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	1	2	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、昨年度の自己点検と比べて改善が図られているが、以下の項目で「やや不適切」「不適切」の評価意見がある。

①進路・就職に関する支援体制の整備についての課題の一つは、年度末ぎりぎりの時点での就職支援である。具体的なケースは、あてにしていた公務員の採用試験結果が年度末で、不合格の場合である。民間企業への就職に急遽、切り替える場合、担任教員と就職担当のスピーディな連携が必要となるが、家族の意向が優先であるため、どうしても決定が遅れがちになることである。

⑧卒業生への支援体制については、主に再受験についての試験情報の提供や取り組みが課題となる。現在は証明書の発行などの事務手続きや、卒業時の担任による個別相談での対応に限定されている。

⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取り組みについては、開校以来現在まで継続して、高校からの依頼による公務員説明会の積極参加、高校在生を対象とした無料の公務員対策講座、大学内における公務員対策講座など高校生と大学生に対する積極的な支援を行っている。但し、契約を取り交わして専属的・恒常的に実施しているものではなく、高校等からの依頼に応じて支援しているものが多い。

②今後の改善方策

公務員試験不合格者の年度末の進路の切り替えについては、事前かつ計画的にご家族の意向を確認することとしたい。また、卒業生への支援については、現行の支援制度を整備することから検討する。卒業生に対し再受験支援を中心に現在は行っている。引き続きフォローを継続する。

連携については、岐阜県内では高校が大学と連携する事例が報告されており、専門学校との連携はほとんど実現していない状況である。公務員試験に関する情報提供や学習指導、面接対策などを含めた就職指導について、入学者の出身高校などを中心に連携先を模索していく。

③特記事項

進路選択に関して、毎年、官公庁説明会を開催し、採用担当者の話を直接伺う機会を複数設けており、在学中にしっかりとした職業観を形成できる機会を大切にしている。また、より若い世代の視点からの就業体験や職業倫理観を在校生に伝達することを狙いとし、卒業生によるOB・OG講演会を行っている。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	2	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、以下の項目で「やや不適切」の評価意見がある。

②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての十分な教育体制整備について、学内外施設ではスポーツ施設や菅平にある研修施設を利用し、教育的成果をあげていると考えるが、海外研修では課題がある。海外研修等の学園支援制度は存在するものの、実際の利用者は少ない。また、インターンシップについては、公務員などの公的機関によるものも増えてきている。積極的に活用する柔軟なカリキュラムの工夫が課題である。

②今後の改善方策

海外研修については、昨年度の学校関係者評価委員会でもその重要性が指摘されたが、昨今の海外情勢や海外での邦人の事故等、リスクもある。国内で外国人対応力を磨く機会を考えて実践していきたい。また、インターンシップは自治体の募集状況を積極的活用できるようカリキュラムを柔軟にするよう努力していく。

③特記事項

学校関係者評価委員会において、「警察官や公務員であっても、外国の方と接する機会が今後増加することが予想されるので、英語・中国語・韓国語による簡単な会話文への取り組みや、海外行動力を養う試みの進展」を期待された。学生の職場の基礎能力として「海外行動力」を身に付ける取り組みを引き続き継続する。特に、学生が海外旅行に出かけ、一定の条件を満たした場合には、積極的に支援する制度を導入している。

(7). 学生の受入募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」のみとなっており、引き続き、より多くの入学者獲得のためのさらなる工夫を実施する。

②今後の改善方策

警察官などでは、採用基準の年齢制限を高くしたり、体力要件を緩和する等募集を拡大している。社会人経験者で、仕事を辞めて警察官・消防官などの公務員を目指す学生の受入れについて、学びやすいシステムと環境を検討していく必要がある。

③特記事項

学生募集については、案内書・HPを中心に、学校の基本情報はもちろん、学科ごとのカリキュラム、資格合格実績、就職実績、学内イベントなど、入学前に正しく理解してもらうような情報提供を心がけている。学校説明会や体験入学においては、参加者に対し、在学生から実際の学校生活について話をする機会を設け、学生目線からの学校情報の伝達を大切にしている。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」のみとなっている。①の財務基盤と②の予算・収支計画について評価が若干低くなっている。

①中長期的に学校の財務基盤は安定しているかについては、現在の財務状況からは安定しているといえる。ただし、学校を取り巻く環境変化への対応が今後も大切となる。

②予算については、所属グループ、所属部署に関する予算が毎年明示されているので、評価については問題がないと思われる。

②今後の改善方策

修業年限を最長2年とする学校であるため、短期的な戦略に重点を置かざるを得ないが、中長期的なビジョンを持って収支計画を立てていくことも肝要である。

財務基盤の安定を補完するものとして、附帯教育事業の運営があり、教育成果を出すことにより、堅実な運営を心掛ける。

財務情報についての公開も毎年度一定の時期に行っており、継続していく。

③特記事項

財務については、入学後に寄付金や学債をお願いすることは一切なく、学園は借入金のない健全な財務状態となっている。

理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査は、公認会計士事務所及び税理士事務所に依頼し適切に行われている。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、利害関係人が財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の閲覧が出来るように、情報公開の場を設けている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	1	0	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」のみとなっている。

ただし、②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているかについては、評価が低くなっている。学園として個人情報の取扱規則を設け、重要課題として取り組み、パソコン、タブレットや答案の管理には細心の注意を払っているが、各教職員の意識、モラルによるところが大きいいため、確実に周知する必要がある。

②今後の改善方策

法令、基準の遵守は現在のところ問題はない。なお、法令、基準の改正があった場合だけでなく、定期的にこれらの再確認を実施していく必要がある。特に個人情報の保護に関しては、年々その重要性が増しているため、今後も重点的にその対策を講じていくことが重要となる。また、昨年度の学校関係者評価委員会でも提言があった「学生のSNS等の利用による問題」に関する対策にも、引き続き取り組んでいく。

自己評価については、現在のシステムを継続するとともに、業務改善資料としての活用も検討していく。

③特記事項

学園では特に多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し、適正に取り扱っている。セクシャルハラスメントについては就業規則に盛り込まれており、個人情報の管理、コンプライアンスには今後も一層の注意を払う。

自己点検・自己評価結果、学校関係者評価など一層の情報公開に努めている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	1	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	0	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	2	0

①課題

自己点検・自己評価結果では、昨年度の自己点検と比べて改善が図られているが、③の項目で「やや不適切」の評価意見がある。

地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているかについては、社会人講座(附帯事業)を開講し、岐阜市を中心に広く募集を行っている。通学している学生が利用する教室及び人員の確保の観点から、現在は公共職業訓練の受託をしていないことが「やや不適切」と判断されたものと考えられる。受託ができる環境を整えることが今後の課題である。

②今後の改善方策

高校からの依頼による高校生等を対象とした講習等を受託し、各種検定試験会場、大学受験会場として施設の貸し出しを継続して行う。また、災害時における校舎利用が考えられるため、防災計画と合わせて配慮していく。

公共職業訓練等の受託は、現在の状況では実施することは厳しい状況であるが、パソコンや担当教員の確保などハード面での問題に取り組み、学園の中長期的な安定性を確保するためにも、受託に向けての整備が図ることが大切となる。

学生のボランティアについては、積極的に展開している。今後も継続して社会に貢献できるマインドを養成していきたい。

③特記事項

学校施設は、土曜日や日曜日において「各種資格試験会場」「大学入学試験会場」等として教室を貸し出している。

名古屋大原学園では、人間としての生き方を東洋思想から学ぶ「人間学読書会」を年5回、無料開催し、地域の各企業から多くのご参加をいただいている。当校でもサテライトシステムを使用し「人間学読書会」に参加することができる。